
風鈴の夢

早良敦司

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

風鈴の夢

【Nコード】

N4549D

【作者名】

早良敦司

【あらすじ】

籠の鳥と月。自由に対する拒絶、あるいは逃避

透き通る闇を裂いて、ちりちりと風鈴が鳴く。

一枚の硝子で隔てられた窓の向こう。遠く、彼方で揺れるそれが、何故か怖かった。

これも透き通るように細い指の間から、零れる紅い光。ああ。そういえば、今日は、満月だったかもしれない。くいつと体を伸ばして窓辺に向かうと、ちりちりと、また何処かで鈴が鳴った。

濁った、紅色の月。ずっと昔にお母様が呉れた、古ぼけた紅入れの貝殻のよう。

瓦斯灯さえ灯らない暗い空は、手が届きそうで、それなのにとても遠い。

私と、空との境目。それは、ただ一枚きりの硝子板。

「壊れる」

それを聞きつけたのか。また、彼が笑った。

「大丈夫、君は壊せる。君は自由なんだ、さあ。こっちにおいで」にんまりと、月が笑う。

「嘔吐き」

何時も通り、私は素っ気なく呟いて、月に背を向ける。

希望なんて、そんなの、全部嘔。それを知っているのに、私は、彼を無視する事はしない。

月は、鏡なのだと。昔、私にそう言い聞かせたのは誰だったか。

月は鏡。私を映す、一枚きりの鏡。

だとすれば、月が囁く淡い希望は……私の、望みなのか。

「ほら。出ておいで」

部屋が、隅のほうから溶け始める。暖めた蠟細工か砂糖菓子のように、どろどろと崩れ、流れていく。それでも、私は、首を横に振った。

天井が雨みたいに滴ってきて、月が揺れる。
遙か彼方で、闇空が滲んでいた。何時もと同じ、紅い月。
それは、回っては消える、朽ち果ての夢……。

（後書き）

月を題材とした掌編小説で、「風船の夜」と対になる作品です。月よりほかに知る人もなし、とても申しましょか。

決して、力を持たない訳ではないのです。ただ、その力は、見たくない物。

所詮は籠の鳥……。外に出れば、耐えられぬことなど解っている。だから、自由など……。そんな物、別に、欲しくはない。

この作品は、そんな想いから生まれています。

また少し違った想いを込めた「風船の夜」と、併せてご覧になっていただければ幸いです。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4549d/>

風鈴の夢

2011年1月28日01時22分発行